

## 論文の内容の要旨

水に関する国際会議プロセス「国連水と衛生諮問委員会」及び「世界水フォーラム」による地球規模水行動実現の成否要因に関する分析研究  
(Analytical study on international meeting processes, “United Nations Secretary-General’s Advisory Board on Water and Sanitation” and “World Water Forums”, in realizing global actions on water and sanitation)

氏名 廣木謙三

### 1. 研究の背景と目的

水問題を解決するための国際会議プロセス（ここでは国際合意や提言、呼びかけを目的とする国際会議、政策対話、賢人会議等を指す）においては大小さまざまな国際会議が開催され宣言・提言・報告などが出されているが、実際の国や現場での具体的行動に結び付いていないとの指摘は多い。こうした水の国際会議プロセスの成否（ここではその後の具体的水行動の実現に焦点を置く）は会議の課題設定、会議の形式・規模や参加者、準備過程や議論の誘導方式、会議結果（提言書など）の内容・表現、フォローアップのプロセスなどの会議構造に多く支配されるが、それら会議構造と国際会議プロセスの成否の関係は明らかにされていなかった。

この研究は地球規模の水問題の解決という目標を掲げて設置された小規模ハイレベルの賢人会議「国連水と衛生に関する諮問委員会（UNSGAB）」と、同じ目標ながら会議の基本構造上その対極にある大規模任意会議である「世界水フォーラム」が地球規模水行動に与えたインパクトをアンケート調査及びケーススタディにより分析し、これら2つの会議の特徴的な会議構造がどのように地球規模水行動の実現に繋がったかを明らかにすることによって、水の国際会議プロセスの成否を握る要因（会議規模・形式、会議の正統性、会議構成員、動機づけ、課題設定・議論プロセス、提言の内容、フォローアッププロセス等の会議構造の要素）とそのメカニズムを明らかにする。またこれら会議の構造比較と相互関係の分析を国連会議の代表である国連総会も含めて行い、その結果に基づき「地球規模水行動に結び付く」有効な水国際会議プロセスの連携モデルを提示しようとするものである。

### 2. 水に関する国際会議プロセスの分類。

水に関する国際会議プロセス分析の前提として、それら会議プロセスを規模と国際会議としての正統性（＝国際社会の認知と受容度）で分類することにより、同様の特徴を持つ会議プロセス群として4つのグループ分けを行うことが出来る。このグループはⅠ．大規模国連会議、Ⅱ．中小規模ハイレベル会議（国連専門委員会、地域閣僚会合を含む）、Ⅲ．大規模任意会議、Ⅳ．中

小規模任意会議の4つである。

### 3. 国連水と衛生諮問委員会の分析

上記Ⅱ群に属する代表例の一つである「国連水と衛生諮問委員会」について、委員全員に対するアンケート調査に対するアンケート結果(回収率95%)及びケーススタディを通じ分析した。この結果以下のことが明らかになった。

- ① 国連水と衛生諮問委員会は、国連事務総長の諮問委員会としての正統性、ハイレベルな委員の国際社会への影響力、委員の国際的な人的ネットワークを特徴(強み)として持っている。
- ② 国連水と衛生諮問委員会は、この特徴を生かして国連総会、国連機関や国際援助機関などのパートナー組織を説得、影響力を行使することによってそれらパートナー機関が提言を実行することで地球規模水行動の実現を達成している。
- ③ 具体的にはまず、主要提言書である橋本行動計画を作成し、その提言内容を実現する行動をおこしている。このために既にある多数の提言群の中から最も重要な提言を抽出するとともに過去の提言で不十分な部分は新提言で補い(例:WOPs)、その上で提言の内容、表現、記述を具体化・明瞭化させ、提言を実施すべき機関を指名した上でそれら機関へのアプローチをしている。
- ④ 上記の強みを背景に、世界の水行動実現のためこの会議体に適したアプローチで目的達成(=橋本行動計画の実現)を図っている。それは以下のとおりである：
  - 議長や委員のトップダウンによる国際社会の意思決定者への働きかけと事務局のパートナー組織事務方へのボトムアップでの働きかけを同時に行う。
  - このために議長や委員の名声、影響力、人的ネットワークを動員する。
  - 事務局は働きかけのタイミングやアプローチ先などを戦略化し、能動的にボトムアップのアプローチを行う。
  - この際資金や活動時間の大量投入というより、影響力とネットワークを集中的に働かせることによって水行動の実現を達成している。
- ⑤ こうしたアプローチの結果、橋本行動計画の主要提言(地球規模水行動)が実現されていることが追跡検証された。

### 4. 世界水フォーラムの分析

上記Ⅲ群に属する代表例の一つである「世界水フォーラム」について歴代世界水フォーラム事務局長全員へのアンケート調査(回収率100%)及びケーススタディを通じ分析した。この結果以下のことが明らかになった。

- ① 世界水フォーラムは、その開放性、決議の非拘束性、水フォーラムの定期開催の中で新しい議論形式の試行・取捨選択と効果的プログラムの継続(=新規性と継続性のコンビネーション)、を会議の特徴(=強み)としている。

- ② 世界水フォーラム主催者は上記の特徴を強く認識しており、これをテコに参加者の自主的なコミットメントと自発的活動を促すことなどにより、世界水フォーラムの目的である地球規模水行動の実現を達成している。
- ③ 具体的にはまず、世界水フォーラムの影響力の源泉である、会議規模（参加者数）の確保、参加の多様性の確保、注目度の確保（ハイレベル参加者による権威づけを含む）を会議開催の優先項目としている。
- ④ 上記の強みを背景に目的である世界の水行動実現のため、主催者はこの会議に適したアプローチで目的達成を図っている。それらは以下のとおりである：
  - 多様な利害関係者を参加させ、それらが問題解決に果たす役割をハイライトする（＝水問題に取り組む行動者を増やす）
  - 政府・組織が新しいコミットを発表することによって関係者の自発的約束・活動を促す
  - 特定の課題に関して特定の団体に対し明確なメッセージを发出する（行動の方向性を示す）
- ⑤ このアプローチの結果、実際に近年の有力な地球規模水行動の多くが世界水フォーラムにより、或いは関連付けられる形で実現していることが追跡検証された。

## 5. 国連総会の整理分析

研究対象プロセスとの比較のため、上記 I 群の代表例である国連総会について既存の資料整理を通じて分析した。

- ① 国連総会は国連憲章及び厳密な会議プロセスの規則より発生する道徳的拘束力及びその結果としての構成員（＝各国政府）の行動実施への影響力及び事務総長・国連機関による監視プロセスの存在を特徴としている。
- ② 上記動的拘束力を背景に、各国政府は自発的に行動を実施する。
- ③ 具体的には国連で定められた会議手順により、構成員より発議された提言は、テーマ別討議、所掌委員会決議を経て、国連総会決議を経て、各国行動が開始される。なお、このプロセスは構成員である主権国家の利害調整と合意形成過程であるため、長期間を要し、具体的な合意が困難であることも多い。
- ④ 国連会議プロセスでは国際社会としての意思決定を行うことが出来、法律的な意味合いの拘束力はないものの、その合意内容次第では政府を中心とした関係者の多様な行動を広範囲かつ大規模に実行させることが可能である。一方で具体的な課題を国連決議として成立させるためには規則と慣例に則った多くの手続きと議論の積み重ねが必要となるため、決議の成立は簡単ではない。
- ⑤ このアプローチの結果成立した国際衛生年の主な活動を整理し、広範囲かつ大規模な活動が実現されていることを示した。

## 6. 国際会議プロセスの比較及び相互関係の分析

上記を踏まえ、これらの会議プロセスにおける合意形成と実行面を比較した。これらによって以下の結論を得た。

- 水に関する国際会議プロセスはその規模や合法性（位置づけ）などによる類型化が可能である。
- それぞれの国際会議プロセスにはその構造由来の強みと弱みがある
- それぞれの国際会議プロセスには会議構造・構成（構成員を含む）に関係した異なる影響力の源泉がある
- 会議プロセスに対応した合意形成の過程とその実現プロセスがある
- それぞれの会議プロセスで合意形成とその実現過程に改善の余地がある

更に、世界水フォーラム、国連水と衛生諮問委員会、国連総会等国連会合が具体的な事例に即してどのように連携しているかを分析した。これによりそれら会議プロセスはそれぞれの機能に応じた役割分担関係とそれに基づく相互関係があり、これらを強化することにより、地球規模水行動の合意形成・実施に関してより効果的な協働を行う可能性があることを示した。この分析事例を基に、水に関する国際議論プロセス連携による水行動合意形成・実施モデル（図1）を提示した。またそれとともに、同種の会議プロセスを水平連携させる方策についてモデル提示を行った。このようなモデルによって地方レベルの水問題を地球規模レベルに集約し、具体的な行動に再構築し、政府や利害関係者によって国や地方レベルの行動に還元していくことが可能となる。

### 水に関する国際議論プロセス連携による水行動合意形成・実施モデル

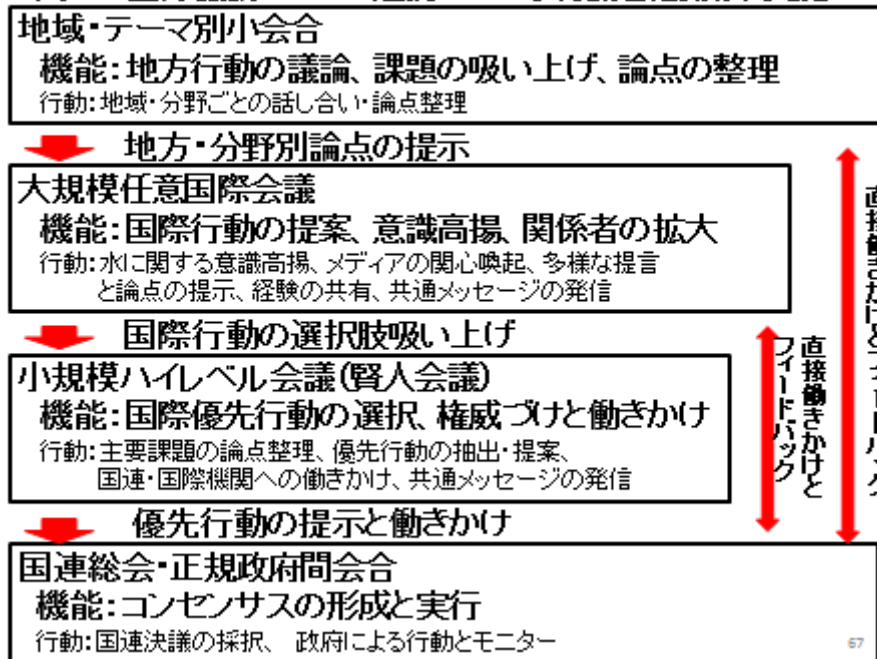


図1 水に関する国際議論プロセス連携による水行動合意形成・実施モデル